

多久北振会 (剣道)

▶赤坂先生と北振会のメンバー！
保護者のみなさん



礼儀を重んじ、心を鍛えます

多久北振会は、昭和48年に発足。40年の長きに渡り多くの剣士を育て、多久市剣道の発展に貢献してきました。

現在は指導者2人と少年剣士(正木潤くん、森下陵斗くん、なかしまかいるくん)の3人が月曜日と木曜日の週2回、18時～20時まで旧北部小学校体育館で練習に励んでいます。

代表の赤坂靖宏先生は「剣道の技術だけでなく、礼儀正しく振舞うこと。まずは生活マナーを教えています」と剣道を通じて礼儀作法や道徳を身につけることが目的と話されました。

保護者のみなさんは「礼儀正しくなった。根性がついた。大きな声のでるようになった」など、剣道を始めて子どもたちの変化について語られました。

体育館では、指導者と少年剣士がマンツーマンで練習をしていて、体育館いっぱい「気合い」と「竹刀」の音が響き渡っていました。ぜひ北振会に一度見学に来てください。

問 赤坂靖宏 ☎75-2520

●連載28● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

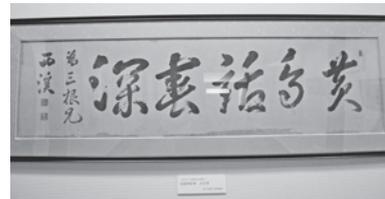
寄贈資料披露展① 伊藤輝久さん寄贈作品

現在郷土資料館では、新しく寄贈していただいた作品を紹介する企画展を行っています。

多久町の伊藤輝久さんからは、多久を代表する偉人、草場佩川、草場船山、鶴田斌、鶴田皓と高取伊好の作品をご寄贈いただきました。草場佩川・船山父子は当時を代表する漢学者であり、書画や漢詩など多くの作品を残しました。鶴田皓は明治期に多くの法律の作成に関わり、実弟の高取伊好は「肥前の炭鉱王」として知られています。

鶴田斌は皓・伊好兄弟の父であり、東原彦舎の教官も務めていました。鶴田斌の姉は草場佩川の妻であり、両家には家族ぐるみの親しい交流がありました。

高取伊好の書「黄鳥話春深」は、西の原に私立多久病院(通称三根病院)を開いた三根英一宛て



▲高取伊好筆 五字書「黄鳥話春深」

に書かれたもので、郷土の歴史を感じることができます。

多久市郷土資料館・歴史民俗資料館・先覚者資料館

開館時間 / 9時～16時 入館料 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《春の芽短歌会 互選》

折おりに夫と気軽に 来し久住
老いては子等と父の日に来る

人生の悲哀も見せて老いてゆく 川浪 信子
鏡の中のわれを見つめる

閑白の夫がもらした「ありがとう」 本村 則子
聞いたその日は涙あふれる

湯気昇る 山々清し 晴れてゆく 梶原恵美子
大空見上げ 今日と向き合う

改憲も 原発稼働も触れぬ気が 浦野 嘉恵
与党党首の 応援演説

尾形 節子

俳句

《俳句 楷樹句会 互選》

ひとときを女に戻す 星まつり 不二見恵美子

熱中症 罹るな 瘦せの 野良子猫 森山 抱石

虎が雨 筑紫次郎を 濁流に 納富 芦風

花石榴 今年七年 息子の忌 春田 泰子

花萼座に 赤子の 寝顔母に 似て 田中久美子

川柳

《多久市川柳会 互選》

大空を見上げたままの 蟬の殻 大谷 和

わたしの胸今は静かな 休火山 猪ノ口昭子

海を目指し 流れ続けている 小川 田代まつこ

目標が揺れて進んだ ジグザグ路 西山 残月

ちゃんぽんがソーメンになり 老い進む 松下 修